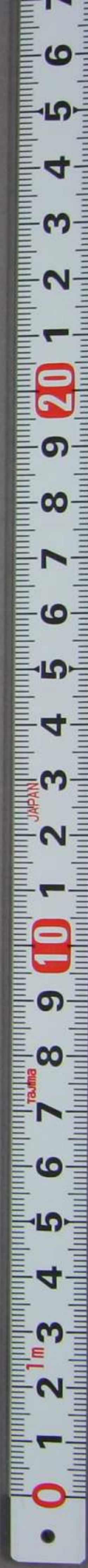


千八百七十五年

鹿兒島縣貿易報告

七

3415



414
A 3142
11 N

千八百七十五年鹿島縣貿易報告書



大正十一年四月
鹿島縣郵寄贈

在長崎領事館在勤一等副官ホリジス氏、編製
スル鹿兒島縣、貿易及工業ニ係ル報告書
閣下ニ送呈ス此、鹿兒島縣トハ即チ曰
薩廣侯、領地ノ公稱ナリ而シテ此、報告書中
ニハ鹿兒島ト琉球トノ貿易ノ狀況ヲモ併テ記
載アリタリ仰願フ閣下余ノ千八百七十五年當
館第四百四拾八號ノ公信ヲ以テ郵送セシウレ
ル氏、新馮貿易報告書ト合セ之ヲ千八百七拾
五年、在日本領事ヨリ出セル貿易報告ト共ニ

版行アラン事ヲ上奏セラレヨ敬具

千八百七拾六年七月十八日

テルビー公殿下

鹿島貿易報告

鹿兒島縣ハ九州ノ南西隅ニ在リ薩ノ大隅貳ヶ國兼大島、鬼界ヶ島、永良部島ヲ口島、ボノ貳拾八島ヲ管轄セリ

地積八万五千四百六拾貳町即チ貳万五千六百三拾八万六千坪余タリ而シテ當縣第一ノ都府ハ鹿兒島ハ東京ヨリ凡ソ九百拾三マイル大坂ヨリ

五百七拾五マイル長崎ヨリ百九拾マイル琉球ヨリ四百マイルノ里程ヲ隔テリ

季候ハ東京ニ比スレハ極テ熱ク寒暑針夏時九於六度ヨリ九於度迄冬季モ亦三於貳度ヨリ三於度以下ニ降ラス

全國山谷極テ多ク平地極テ少シ土地ノ質肥瘠混淆ナレ氏概シテ砂地ヲ多トス尤モ大隅ノ東部ニハ膏腴ノ土地アリテ盛ニ果实植物ヲ産スト云フ當國ノ人民ヲ觀ルニ沿海ノ者ハ重ニ魚獵ヲ事トシ内部ノ者ハ耕作山獵伐木ホヲ業トス

今九ニ此ノ管内ノ屈指ノ島五ヶ所ノ幅員ヲ掲
ケテ之ヲ示ス可シ

大島 周回百四於「マイル」
一マイルハ十六丁
半二十六間余

鬼界ヶ島 同 於九「マイル」

徳ノ島 同 五拾壹「マイル」

氷良部島 同 三拾五「マイル」

ヲロノ島 同 於貳「マイル」

人口

千八百七拾五年一月一日ノ調査ヨレハ全縣人
口統計八拾壹万貳千三百貳拾七人内男四拾壹

万三千三百五拾人女三拾九万八千九百七拾七
人此内士族貳拾万四千百四拾三人平民六拾万
八千百八拾四人家數於七万六千四百三拾貳戸
神社千七百三拾四ヶ所ナリ

教育

学校九於七ヶ所(内三ヶ所ハ女学校)アリ教員男
五百壹人女於五人生徒全員一万三千百六拾六
名内女四百四拾人アリ此ノ学校ハ半ハ文部省
ヨリ下付セシ毎年ノ学資配賦金三千八百弗ヲ
以テ維持セシカ其余ハ衆人ノ献金ト或ル士族

ノ賞典祿一万貳千石ヲ以テ之ヲ并セリ(此ノ賞
典祿ハ戊辰ノ年王政一新ノ際ノ軍功ニヨリ政
府ヨリ薩廣ノ或ル士族ニ下付セラレシニ同人
等ハ之ヲ已ノ為ニモスシテ学校ノ資金ニ供セ
シト云フ)是等ノ学校ニ於テ日本学教師三十拾七
人漢学教師四百拾四人英学教師四人佛学教師
一人タリ以テ教育ノ如何ヲ想見ヘレ
右諸学校ノ内鹿兒嶋都府ニアル貳ヶ所ノ学校
ヲ最トス一ハ上級生徒ノ為メ設ケラレタルモ
ノニテ英佛学等ヲ教ヘ今一ハ私学校ト唱ヘ全

ク戊辰ノ際^從陸軍ノ兵士ニテ成立リ此ノ私学校
ノ生徒鹿兒嶋都下ノ士族千五百人外土着ノ
士族五百名アリ都下ノ士族ハ正シク昇級スレ
氏土着ノ士族ハ唯生徒ノ名外アルニ前ニ述ヘ
シ如ク西郷其他ノ者賞典祿ニテ維持サレタリ
全人口ノ内農業ヲ事トスルモノ三十拾万人職工
二千五百人雜業ノ者九万人勤勞人三千人ナリ

地理

鹿兒嶋縣下ノ都邑ノ最タルモノヲ左ニ掲ク
薩厂國ノ部

鹿兒島	人口	八万七千人
加世田	同	三万五千五百人
南方	同	二万四千人
種子山	同	二万千人
川内	同	同
出水	同	壹万八千人
指宿	同	壹万五千五百人
阿久根	同	同
大隅國ノ部		
種子竹島		壹万八千九百人

國府
加治木

壹万七千百人
六千三百人

港

鹿兒島灣ハ環抱シテ能ク港ノ形ヲ成スト虽氏
 到处水深ニテ投錨ニ便ナラス此ノ縣下ノ主要
 タル港ハ薩戸ノ鹿兒島山川加世田市来枋ノ津
 久慈京泊阿久根又大隅ノ内ノ浦大泊トス其他
 大島ニモ多少ノ小港アリ其内大クマラ最トス
 島

當縣下ニハ前ニ記載セシ五島ノ外尚或於之島

アリ即チ長島ヒシヤノ島伊東島上甕島下甕島
琉璜島黒島竹島口ノ島中ノ島諏訪瀬島平島伏
蛇島思石島室島種子ヶ島屋久島口ノ永良部櫻
島ウケ嶋與論島是レリ

山

當縣管内ハ到ル所皆山ナラサル所ナキモ而モ
四百一ト以上ノ高サニ起ルモノ絶テナシ此
ノ内最モ有名ナルモノヲ薩ノ野間嶽海門嶽
冠嶽琉璜島金峯山上武者嶽矢筈嶽八重山大隅
ノ高千穂ノ峯國見嶽八重嶽タカクマ山イワシ

嶽岬山櫻島嶽イノカワ嶽トス

川

當縣ニハ更ニ川ノ繁要ノモノナシ唯千ヨ川ヲ
最モ大トス凡五拾マヽルノ距離ヲ流ル其他ハ
薩ノ甲突川真瀬川廣瀬川大隅ノ新川雄川神
分川串良川カミナ川ナリ何レモ長サ拾マヽヨ
リ五拾マヽト道ノ距離ニ過キス

湖

又一ノ大湖アラズ只重ナルモノハ池田池トス
周田九拾三マヽ又ヲ十三池ト云フ周田五マヽ

イル其他中原ノ池住吉ノ池鰻ノ池カイノ池アリ
温泉

温泉ノ数甚ダ多ク癩瘡毒傷冷毒ヲ患ルモノ屢
来テコロニ浴ス其最著名ナルモノヲ市来トス
琉黄湯ナリ其他薩广ノ港ノ湯二月田鶴田伊作
湯河内親父ケ湯鰻ノ湯イテ火湯トス(脚気病者ノ
浴スル所ナリ)又大隅ノ黒髪湯古里ウナミナ塩漬界
野尻久山ノ湯小野ノ湯平野内トス此諸湯ノ過
半ハ琉黄湯ナリ然レドモ多ク明礬石灰ノ気強シ
児ガ水摺ノ濱ニ於テハ砂中ニ穴ヲ穿テ湯ノ涌

出スルヲ待テ之ニ浴スト云フ

道路

鹿児島都下ノ近傍ノ道路ハ可也平坦ニシテ且
幅廣キモノアレドモ内部ニ至リテハ高低凸凹ニ
シテ甚ダ悪シ西部ニ往復ハ重ニ出水街道ニ
由ル此街道ハ伊集院市木向田西方阿久根ヲ通
リ出水ニ至テ終ル又東ヘノ道路ニハ福山街道
志布志街道ノ二道アリ福山街道ハ重富加沼永
國府ノ濱ノ市ヲ經テ福山ニ終ル志布志街道ハ
串良ニ達ス南ノ方ニハ谷山街道伊作街道アリ

是レ谷ノ山喜入、指宿山川、頼娃伊作、加世田、南方
ニ至ルノ道ナリ北ノ方ニハ牛山街道郡山街道
アリ一ハ溝邊横川、菱刈ヲ通シテ牛山ニ終リ一
ハ郡山入来宮ノ城ヲ經テ太良ニ達スルモノナ
リ

貿易

鹿兒島ノ貿易ハ大坂及ビ琉球諸島ト取行フ事
甚多クシテ東京長崎下関ト取引スルハ極テ少
シ以前ハ凡テ五艘ノ日本形商船アリテ春季鹿
兒島ヨリ琉球島ニ向テ出帆シ七月ノ順風ヲ待

テ歸航シ又琉球ヨリモ四五艘ノ日本形商船ヲ年
ニ鹿島ニ往復セシメ互ニ貿易ヲナセシガ近來
ハ定時琉球ニ往復スル蒸気船ニテ此ノ貿易ヲナ
セリ

當地貿易品ノ一要部ヲ占ムル砂糖ハ重ニ琉球
其他鹿兒島所轄ノ諸島ヨリ輸入セリ尤來琉球
ハ多年ノ間日本ト支那トノ貿易ノ互市場ニシ
日本ノ産物ハ琉球ヲ經テ支那ニ赴キ又支那ノ
物品ハ琉球ヲ經テ日本ニ來リシモノナレドモ
日本ト支那トノ開港場ニ於テ互ニ直貿易ヲ

ナスノ今日ニアリテハ此等ニ待ツコトナキ故
此ノ貿易ハ全ク絶タリ

輸入

琉球其他ノ諸島ヨリ輸入セル砂糖ノ量数尤ノ
如シ

琉球ヨリノ分 六百万「カ」ツチ「一」但「一」斤「一」ナリ

永良部ヨリノ分 貳百万「カ」ツチ「一」

鬼取島ヨリノ分 同断

徳之島ヨリノ分 三百五拾万「カ」ツチ「一」

大島ヨリノ分 六百万「カ」ツチ「一」

総計千九百五拾万「カ」ツチ「一」

此代價七百八拾万「カ」但「一」ツチ「一」ニ在相場

此ノ外琉球及ビ他ノ諸島ヨリ輸出セシモノハ

泡盛、牛皮、塩漬豚、鮫「一」薄地「一」、紬、女布、鶏「一」

叩「一」コ「一」デ「一」ト「一」木綿布「一」トス

大坂ヨリ輸入セシモノハ木綿、金星石、海草、舶来

雜貨及ビ錢ナリ

輸出

琉球其他諸島ニ輸出セシモノハ茶、烟草、油、紙、材
木、米、蠟、蠟、漆、鐵具、木綿、金星石、海草、豆類ナリ

但し一〇〇〇六九
我百斤三斗

長碕エ輸出セシモノ樟腦、千〇〇トル、
付於四ドルノ相場ニテ琉黄、
ヒコルニ付貳弗ノ相場ニテ松板、
菌類三百トル、烟草四千トルナリ
大坂エ輸出セシモノ砂糖、烟草、
琉黄、木綿糸、麻布、木綿布、
陶器、生蠟、五十トル、
瞬樟腦、
横濱ニ輸出セシモノ千八百七
茶四千トルノモ
年々白川縣ヨリ多量ノ米ノ輸入アリ是レ土地

ノ産米人口ニ比スレバ毎年六万石ノ不足アレ
ハナリ
当縣下ニ在ル船数総計七千〇三於九艘内蒸気
船六艘西洋形風帆船六艘其餘ハ日本船ナリ此
ノ日本船ノ内五百貳拾一艘ハ五拾石餘積ニシ
テ其他ハ之ニ下レリ
産物金屬類
當縣下ハ極テ植物、礦物、金屬ノ産出ニ富リ
金山ハ溝邊セガ一ヲ貳ヶ所ニ在リ而テセガノ
ヲノ礦山ハ當今礦業ニ從事セリ此ノ金山ハ産

廣ノ旧知事ノ所有タリ

銅

此ノ礦業ハ即今國府ニ於テ行レタリ又寶島ニ
モ銅山アリト云

鐵

鉄山ハ小根占串良吉田ニアリシガ礦業ニ着手
セシハ只小根占ノミ然レトモ同所製出ノ量僅
ニシテ此地ノ需求ニ充ルニ足ラス随テ毎年巨量
ノ輸入ヲ他國ニ仰ケリ

錫

此ノ礦山ハ數ヶ所ニアレ氏礦業ニ從事セシハ
凡リ慶島ヨリ拾貳「マ」イノ所ニアル谷山ノミ
琉黄

又數ヶ所ニ産出スル所アリ然レ氏其ノ最モ大
量ヲ生スル所ハ琉黄島中ノ島宝島ナリ

黒鉛

加世田ニ於テ曾テ此ノ礦業ニ着手セシガ資本
ノ乏キ為メ閉業セリ

鉛、硝石、明礬

是等ノ産出所アリ然レ氏未タ礦業ニ着手セス

石炭

種々ノ搜索アル由ナレ氏未タ一坑ヨ見出スヲ
得ス尤モ石灰ハ諸所ニ夥ク有リ

烟草

此ノ耕作甚闊ク當國ノ烟草ノ品柄、最良ナル
嘗日本全國ニ名有リ就中其最モ良キモノハ國府
指宿ニ産スルモノトス此産出高毎年百万此産
高毎年百万「カッチ」其代價拾万弗余ナリ
各年ノ産出高九ツ六拾万「カッチ」ニシテ重ニ
大坂ニ輸出セリ

米

此ノ耕作極テ少シ是レ土地ノ産米ニ適セザル
ニ由ル尤モ大根ノ作多キ故歳入ノ内大根ハ九
分米ノ位地ヲ占タリ

此ノ外樟脳、蜂蠟、漆、鯉節、鮫ノ産物アリ又鹿見島
ハ馬(縣下ニ於テ即今拾四万七千五百七拾八匹
アリ)ト大竹トノ産出ニ付キ名アリ又櫻島ハ巨
大ノ大根ノ有名ナル産所ニシテ其地ノ大根ハ
日本諸國ニ産スルモノニ比スレハ大ニ三倍セリ

製造業

鹿見島都府近傍ハ製造ノ主要ノ位地ニシテ通
常此ノ邊ニテ製出スルモノハ木綿布陶器、玻璃
器、酒焼酎類ナリ其他絹、紙類モ少量ノ製出アリ
鹿見島都下ノ礮ニ於テ木綿製造并紡糸機械ノ
設アリ此ニ英國製ノ織機百箇ヲ備フ織工貳百
五拾人アリ何レモ賃銀ヲ米ニテ受取ル其割合
工業ノ巧拙ニ應シ男一日ニ付八合ヨリ三升六
合迄女八合ヨリ壹升五合迄小童八合ヨリ壹升
迄ナリ世工中ニハ既婚未婚ノ者アレ氏専ラ^從
事スルモノ極テ稀ナリ元來此ノ紡糸機械薩戸侯

ノ為メニ設ケシモノニシテ此ノ所ニテ量目織
柄トモ英ノマ^ニ子エストルヨリ輸入セル金巾
如キ生金巾ヲ織出ス可キ見込アリテ已ニ僅
カ五六反ヲ織出セシガ支那^{日本}ノ木綿糸ノ極
テ短キ為メニ之ヲ織ルニハ一層ノ費用ヲ要シ
且多クノ時日ヲ費ス故ニ遂ニ此ノ企ヲ止メ只
地太ノ木綿布ヲ織出ス事トナレリ此ノ機械代
價凡ソ八百万弗ニシテ又當所ノ設立ノ為五万
弗ヲ費シタリト而シテ此製造所ハ現今ハ或ル
社中ノ手ニ屬シ重ニ木綿布、木綿糸ヲ織出スヲ

主トセリ其他大幅絹糸絹木綿交織モノモ少量
製出アリ

此ノ製造ニ供スル木綿ハ総テ之ヲ大坂ニ仰キ
其輸入高毎年貳百六十包(目方於五^ハト入ノ
壹包ノ價平均於五^ハトナリ
余ノ此ノ製造所ニ来リシ時ハ只木綿布ト木綿
糸ノ製造ニノミニ從事スルヲ見タリ聞ク当時
活動ノ只三十拾ノ織機ニテ一日ニ付長貳百五十
貳^ハト幅ニ^ハト半ノ大布拾反并木綿糸三
百五十拾^ハツチ^ハトヲ製出スル由此ノ木綿布ハ價高

反ニ付九四弗六十^ハトニシテ木綿糸ト共ニ
大坂ニ輸出セリ又編織ノモノヲモ製出スレバ
是レハ大半當地ニテ消費サルナリ
此ノ製造所ノ工業時間ハ七時間トシ午前八時
三拾分ヨリ始メ午後四時三拾分ニ終ル最モ其
内午餐ノ為メ一時間ノ休息アリ
絹織物ノ事業ハ極テ盛ナラサレバ木綿ノ需要
夥多ニシテ已ニ余ノ来シ時モ日本政府ヨリ兵
隊ノ卧具等ノ為メ注文ヲ受クルヲ見タリ

造船所

此ノ造船所ハ本綿製造所ノ近傍ニ在リ以前ハ
當縣ノ所屬ナリシガ近來ハ海軍省ノ所轄トナ
レリ當所ハ只全ク大砲并大小ノ彈丸等ノ製造
ニノミ洗事セリ聞ク昨年當所ニテ三百八拾八
人ノ職工及ビ百七拾五人ノ人夫ヲ用ヒ銅製大
砲四斤ノモノ貳拾門八斤ノモノ八門又鑲製大
砲四斤ノモノ壹門及ビ彈丸大小取交壹万千發
ヲ製造シタリト然レ兵造船所長官ノ余ニ語シ
ニハ此ノ量數ハ只政府ノ注文ニ應シ製シタル
マテニテ若シ必要ノ時ハ此ノ三倍ノモノヲ製

造スルヲ得ルナリト此造船所ノ機械極テ能整
ト蒸氣ニテ運用スルノ鉋、舞錐、鑿錐、鋸等ヲモ
備ヘリ

彈藥

此ノ品ハ兵隊ノ為メ巨量ノ製出アリ此ノ製造
所ハ鹿兒島ノ近傍ナル瀧ノ上又大隅ニ接スル敷
根ニ在リ

縮

此ノ製造所ハ鹿兒島都下ニ貳ヶ所アリ何レモ
近來ノ設立ニ係ル事ナリ所ハ縣廳ノ近傍ニ設ケ

アリテ半ハ政府ニテ之ヲ維持セリ此所ニ手織
ノ織機三十拾箇ヲ備フ而シテ此ノ近邊ノ土地ニ
ハ桑樹ノ植付アリ又製造所ノ一方ニテハ女工
ノ絡車ニテ蚕糸ヲ引出スアリ又一方ニテハ此
ノ糸ヲ織物ニ織出セルアリテ是等ニ由テ考フ
レハ桑ノ植付ヨリ絹ノ織出マテノ事業ヨリ此所
ニテ取行フモノト見ユ

此ノ製造所ニテ製出ノ絹ハ総テ大幅ニシテ或
ハ六「^フ」トニ及モノアリ而シテ此ノ絹布ハ過
半鹿兒島ニテ使用サル、モノ多クシテ只各年生

糸ノ少量ノモノ(九ノ千「^カ」千「^ト」横濱ニ輸出セ
ラル、アルノミ

桑樹ハ此ノ地ノ國産ノ一物ナリシモ往年ハ絶
テ此ノ生植ニ付注意セサリシ然ルニ近年ニ至
リ無職ノ遊民ヲ工業ニ就シムルノ企アリシニ
ヨリ專ラ此ノ耕植ヲナセリ概シテ當國ノ桑樹
ハ自ラ日本ノ北部ノ桑樹ヨリハ極テ細薄ニシ
テ鹿兒島ノ壹ケ年ノ樹北部ノ貳ケ年ニ匹敵ス
ト云又此ノ製造所ニ於テ余ハ「^心」ツホト云ヘル
一種ノ繭糸ヲ示サレタリ是レ其ノ「^心」ツホニテ

養ハル、ヲ以テ云フ此ノ糸ハ其色暗黄ニシテ
其糸柄通常ノ生糸程ニ細微ナラス又堅強ナラ
ズ

此製造所ニ於テ糸捲ノ業ニ従事スル女工ハ過
半大隅ノ婦人ナリ大隅ノ婦人ハ総テ手ニ黥墨
ヲ成シ又結髪ノ状モ一種別殊ナル故一見シ
テ鑿別シ易シ元來大隅ノ婦人ハ年齢拾五歳ニ至
レハ黥墨ヲ始メ夫レヨリ婚礼ノ期迄漸次ニ其
數ヲ増加シ婚禮ノ後今一箇ノ大點ヲ添テ始テ
止ム此ノ製造所ノ男工給料一日拾五錢女工ハ

之ニ下ル

前ニ速マシ今一ヶ所ノ絹製造所ニハ水車ノ用
ヒアリ然レ氏未タ昨今ノ開業故其幾何ノ製造
ヲナスヲ得ヤ否ヲ定メ難シ

陶器製造

陶器製造ノ事業ハ是ヨリ前貳百年ノ間ハ盛ニ
行レタルモノナリシカ近来ハ極テ衰微セリ現
今此ノ製造ハ重ニ鹿児島都府ヲ距ル凡ソ於貳
マイハノ所ニ在ル苗代川ト云ヘル村ニテ行
レリ初メ此ノ陶器製造ノ一ハ千六百年頃太閤

朝鮮征伐ノ時島津兵庫守義弘ノ携一來リニ朝
鮮人ニヨリテナサレタリ而シテ此ノ朝鮮人子
孫ハ今日モ尚永續スルアリテ其ノ衣裳姓名結
髮ノ状ヲ殊ニシ又朝鮮語ニテ記シタル書及
朝鮮語ヲ話スルヲ能スルアリテ一見其朝鮮人
タルヲ知ルニ足レリ此ニ製造スル陶器ニ類
アリ一ヲ石焼ト云フ真ニ所謂磁器今一ヲ土焼ト
云フ所謂土器ナリ
酒焼酎醬油
是等ノ製造ハ盛ニ行ハレ其製造ノ為メ消費ス

ル所ノ米夥クシテ毎年酒製造ノ為メ三千貳百
八拾石焼酎ノ為メ九百九拾石醬油ノ為メ六百石
合計四千八百石ヲ費セリ

波玻璃

玻璃器ノ製造ハ今玻璃板、染付ノ飲器、裝飾等
ノ製出アレ氏大ニ衰微ノ景況ニテ更ニ記載ス
ヘキ程ノモノナシ鹿兒島都府
此ノ都府ハ鹿島縣第一ノ首府ニシテ日本ニ於
テ最モ旧キモノトス此都府ハ鹿兒島湾ノ西方
ニアリ其向凡ソ貳里ノ距離ニ於テ櫻島ト云ル

島アリ其島ノ過半ハ高サ三千六百フトノ火
山ニシテ常ニ其頂上ヨリ白雲ヲ吐出セリ此都
府ハ海面ヨリ望メハ更ニ壯觀ナシ是レ建家ノ
低ク且薩戸侯ノ旧城焼失以來断テ眼目ニ燦然
タルモノナキ故ナリ又海岸ニ沿テ臺場アリ即
チ千八百六拾三年我軍艦ノ攻撃セシモノナリ
此ノ臺場今ニ依然トシテ内側へ圓形ヲ形リ陸
ヨリ若干ノ距離ニアリ其一ニ尙大砲ヲ備へ煩
ル防禦ニ注意スルニ似タリ
此ノ都府ハ市店甚タ少クシテ又其在ルモノモ

但シ一エーケルハ
凡ソ我四又十八歩
余

極テ小店ノミ又市街拾ニ八九ハ狭サニシテ巷
坊ト云ツヘキ程ノモノナリ乍去士族ノ住居ハ
ル所ハ美麗ニシテ一層ノ觀望ヲ具ヘ街路モ廣
ク且清淨ニテ小砂ヲ敷テ兩側ニ家屋ノ連ナルア
リ而シテ此ノ家屋ハ各門戸土塼或ハ生牆ヲ備
へ内面ニハ橙、楓、蠟、木等ヲ植附ケリ又此ノ都
府ノ中央ニ凡ソ拾エーケルノ練兵場アリ之ニ
接シテ又蕨鹿兒島城ノ遺墟アリ又此ノ背面ニ樹
木鬱葱タル美麗ノ一高丘アリ
海岸ニ沿ヒ北ノ方ニ磯ニ赴カザ道アリ磯ハ旧

薩戸炭夏時ノ住所ナリ此ニ櫻島ニ面シテ水綿
製造所兼造船所アリ此ノ所ニ於テ余ノ引路者
一小島ヲ指シ余ニ語ラ曰ク波ノ島ハ往年我カ軍
艦ニ發砲セシ所ニシテ同所ニ今ノ縣令大山格
之助五於人ニ將トシテ劔戟ニテ我軍艦ノ來襲
ニ備ヘリ然レ氏我カ船隊已ニ出發ニ際シタレ
ハ再ヒ引返ス事ヲ欲セスシテ此ノ壯士ヲ苦メ
サリレナリト又此ノ都府ノ背面ニ在ル小丘ニ
接シテ空地アリ此ノ所ハ曾テ大伽藍アリシカ
今存セス此ニ又余ガ引路者語テ日住年我カ來

攻ノ時薩戸人ハ殊更ニ此ノ近邊ノ塔上ニ見レ
伴テ城郭ノ状ヲナセシカ我軍ハ其詭策ナルヲ
知ラスシテ之ヲ真ノ城壘ト見做シ萃ニ發砲セ
シ故燒失シタリシト
又一事記載スヘキモノハ此ノ都府ノ河橋ノ建
築ナリ此邊ノ橋ハ大半石橋ニテ歐羅巴風ノ円
形ヲナセリ其最大ナルモノヲ高麗橋ト云フ千
百年代ノ末當所ニ在ル朝鮮人ノ建創セシモノ
ナリ
此ノ都府ノ人口總計八万七千百九拾八人内士

族三万人(男壹万四千九百四拾人女壹万五千〇八拾四人)平民五万七千七百七拾四人(男貳万九千三百七拾貳人女貳万七千八百〇貳人)十り
 家數壹万八千八百六拾貳户内自家作壹万四千〇貳拾貳户借家四千八百四拾户十り

歲入歲出等

縣廳ヨリ、調書ニ據レハ千八百七拾五年當縣
 歲入歲出左ノ如シ

歲入

米 拾四万五千四百貳拾三石

豆 千三百五拾九石
 金 拾四万貳千八百七拾貳石

歲出

米 貳拾五万貳千六百五拾石
 金 拾七万四千七百七拾三石

不足高

米 壹万七千貳百貳拾七石
 金 三万千三百〇壹石

歲入、種類

第壹部 地租 納米 於四万五千四百貳拾五石

第貳部	地租	納租金	千三百五拾九石
第三部	同	納租金	於三万五千三百五拾三石
第四部	釀酒稅		千百四拾壹石
第五部	市街稅		貳千七百貳拾三石
第六部	船舶稅 其他賣買稅		三千石
第七部	印紙稅		三千石
第壹部	歲出ノ部		三千石
第貳部	官負月 始其他		四千四百石
第參部	家祿費 典祿渡		五千六百石

第四部	回漕米入費	六万六千五百石
第五部	用水極其他	五千五百石
第六部	雜費	四万五千貳百〇三石
第七部	備縣廳	三千百貳拾石
第八部	租不足 受取分府	壹万八千貳百五拾石
第九部	戶長給料渡	七千五百石
合計		八千百三拾四石
金米		貳拾五万貳千百三拾四石
		於七万四千百七拾三石

余覺島滞在ノ日確實ノ一報ヲ得タリ曰ク鹿見島
縣士族ノ歲入ハ米高貳拾七万石ニシテ此内於
三万石ハ都府住居ノ士族ニ屬シ拾四万石ハ都
外住居ノ士族ニ屬セシガ都下ノ士族ニトリテ
ハ此ノ高ハ徒ニ名分ノミニシテ其實壹石ニ付
三合乃至六合ヲ受取レルナリ如何トナレハ都
下ノ士族ノ土地ハ遠隔ノ所ニ在リテ自ラ耕作
ニ從事スル能ハサルヨリ已ムヲ得ス其土地近
住ノ農夫ヲシテ是ヲ耕作サシムルニ至レハナリ
畢竟石ニ掲リル貳拾七万石ノ高ハ勅高ニ是ヲ

玄米ニ十セハ漸ク壹石ニ付九合或ハ貳合ニ減
セリ而シテ此ノ九合或ハ貳合ノ内ヨリ九其地
ヲ開墾セシ士族エノ部分トシテ三分ノ壹ヲ引
去リ其餘ノ三分ノ貳ヲ以テ各士族ニ配分セリ
即チ壹々年貳拾五石以下ノ士族ハ六石宛ヲ与
ヘリ而シテ其餘ヲ小作人ノ所得トス此小作人
モ亦其所得ノ中ヨリ若干ノ高ヲ政府ニ納メリ
然レ氏都外住居ノ士族ハ是等ニ比スレハ自身
ニ所有地ヲ耕作シテ小作米ヲ拂ハサリシ故一
層都下ノ士族ヨリ多分ノ收入アリト

一般ノ景況

當縣管内ノ諸島ニテハ大島ヲ最モ緊要ノモノ
トス先年此ニ砂糖製造ノ機械ヲ設ルノ企アリ
テ凡ソ貳拾万弗ノ代價ヲ以テ貳箇ノ機械(英國
ヨリ壹箇和蘭ヨリ壹箇ヲ買入レ洋人ヲ傭ヒテ
此製造ニ從事セシメタリ若干年間此ノ製造ヲ
ナセシニ此邊ノ砂糖ノ樹ノ大サ極テ小ニシテ
液汁ヲ生スルコト少シナカラモ通常日本製法
ノ砂糖ヨリハ最良ノ品柄ノ物ヲ生シ且斤量モ
壹割増ノ物ヲ出シタリ然ルニ貳三年間經驗ヲ

ナセシニ此製造ノ砂糖ノ賣上ノ所得日本製法
ノモノニ比スレハ若干ノ減シアルヲ發見セリ
然ルモノハ日本ノ製法ニテ製シタル砂糖ハ歐
製ノモノニ比スレハ斤量多ク且糖密ヲ産セル
アレハ假令改製ノ分ハ品柄ニ於テハ遠ク相
勝リ隨テ高貴ノ價直ヲ博得スルアリト雖モ
其製造ノ費用ヲ償ニ足ラス加之糖蜜ヲ賣ル能
ハサルヲ以テナリ
此外又歐洲ノ機械ヲ以テ製造ヲナスノ不便サ
ナカラスレテ就中其最モ甚キモノハ薪ヲ用ユ

ル能ハスジテ石炭ヲ用ユル工費用随テ多ク
又液汁ヲ絞シ後ノ売ヲ砂糖ノ産地ニ運搬シテ
是ヲ肥トナサザル等ノコトアリ是レ製造所ト
産地トノ間懸隔シテ運搬ニ付キ多クノ入費ヲ要
スル工エナリ是ニ及ビテ日本ノ製法ヲ以テ不
レハ費用甚々少ク一人ニシテ農夫ト製造者ト
ヲ兼スルヲ得農夫ハ自ラ砂糖ヲ培養シ又自
ラ是ヲ(牛)ニテ挽キタル石菴ニテ榨メ其液汁ヲ
絞シ後ニ又自ラ其売ヲ産所ニ運輸スルヲ得タ
リ

加之日本ノ市場ニテハ歐洲製ノ糖蜜ヲ去リタ
ル砂糖ヨリ一層此ノ日本製ノ糖蜜ヲ有スル砂
糖ノ方ヲ嗜メリ又曰薩戸炭ハ農夫ヨリ石ノミノ
代價ニテ此砂糖ヲ買上ケ其代金トシテ烟草米
其他日本ノ産物ヲ給セシト是等ノ故ヲ以テ或
三年前此ノ歐羅巴ノ製造器械ハ廢止セラレ再
ニ廉價ニテ歐洲ノ一商會ニ賣渡サレタリ
現今濱田ヨリハシマテ溝渠ヲ築キ佐多ノ岬ノ危
険ノ所ヲ切斷スルノ目論見アリ(佐多ノ岬ハ極
テ危険ノ物ニシテ人ノ恐ル、所ナリ是ノ溝渠

ノ建築ハ和蘭ノ法ヲ用ユル由ニテ費用概計於
五万弗ヲ要シ年月ニケ年ヲ期スト蓋シ此ノ溝
渠、長カ九於里内外タルベシ

於長崎

千八百七拾六年一月一日

シヨンセー、エルホツニス

署手

サーバレー、パークス閣下

